

**函館市医療・介護連携推進協議会
多職種連携研修作業部会 第24回会議**

日時：令和8年10月6日（火）19：00～

場所：函館市医師会病院 5階講堂

【次 第】

1 開 会

2 議 事

○報告事項

1. 令和8年度 多職種連携研修計画 進捗状況（資料1，2）
2. 研修情報の一元化と提供について（資料3）

○協議事項

1. 第11回 函館市医療・介護連携多職種研修会について
（資料4，5，6）
 - ・グループワークの進め方

3 そ の 他

4 閉 会

【配付資料】

資料1：報告事項

資料2：令和8年度 多職種連携研修実績および予定表

資料3：ホームページ上で掲載した研修情報一覧（令和8年4月～令和8年9月）

資料4：研修概要書

資料5：タイムテーブル（案）

資料6：役割・グループワークの流れについて（案）

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会 第24回会議 出席者名簿

※★…部会長および副部会長 ○…幹事

(敬称略)

分 野	所属団体	氏 名	勤務先等
	公益社団法人 函館市医師会	○幹事 花輪 拓哉	函館市医療・介護連携支援センター
	一般社団法人 函館歯科医師会	川村 曜補	カワムラ歯科クリニック
	一般社団法人 函館薬剤師会	榊 克博	函館中央薬局桔梗店
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	奴賀 陽子	社会医療法人函館博栄会 函館渡辺病院
	道南在宅ケア研究会	★副部会長 川口 篤也	医療法人道南勤労者医療協会 函館稜北病院
	はこだて地域医療連携実務者協議会	橋浦 大希	函館五稜郭病院
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会南支部	★部会長 阿部 綾子	社会医療法人函館脳神経外科 函館脳神経外科病院
	北海道柔道整復師会函館ブロック	室田 多哉	室田整骨院
	函館鍼灸マッサージ師連絡協議会	益井 基	益井東洋治療院
介 護	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	宮城 智美	函館脳神経外科指定居宅介護支援事業所
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	京谷 佳子	函館市地域包括支援センター ゆのかわ
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	山上 雄大 ※欠席	函館おしま病院 訪問リハビリ
	北海道訪問看護ステーション連絡協議会 道南支部	白川 直子	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 在宅療養支援室 訪問看護係
	道南地区老人福祉施設協議会	齋藤 禎史	特別養護老人ホーム シンフォニー

○報告事項

1. 令和8年度 多職種連携研修計画 進捗状況

(1) 相互理解の促進

①医療関係者向け研修

共 催：ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

日時・場所・参加人数：

(ア) 令和8年5月21日(木) 17:30～18:30 参加人数：43名
市立函館病院(イ) 令和8年8月5日(火) 17:30～18:30 参加人数：25名
函館新都市病院(ウ) 令和9年2月頃予定
函館市医師会病院テーマ：「退院後、施設でこんな生活をしています
～介護医療院、養護老人ホーム編～」対象：函館市、北斗市、七飯町の医療・介護関係者
函館市の障がい福祉関係者講師：介護医療院 竹田病院 相談員 中山 勇 様
養護老人ホームまろにえ 相談係長 前田 麻莉子 様

②介護・障がい福祉関係者向け研修

共 催：ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

日時・場所・参加人数：

(ア) 令和8年6月12日(金) 18:30～19:30 参加人数：100名
函館競輪場テシアター(イ) 令和8年8月19日(水) 18:30～19:30 参加人数：40名
北斗市総合文化センター(ウ) 令和9年2月頃予定
函館市医師会病院テーマ：「現場で知っておきたい精神病床・医療療養病床の役割と事情
～思いやりのある連携～」対象：函館市、北斗市、七飯町の医療・介護関係者
函館市の障がい福祉関係者講師：富田病院 患者サポートセンター
医療ソーシャルワーカー 森岡 佑太 様
ななえ新病院 患者サポートセンター
医療相談室課長 越中 幸紀 様

③オープンカンファレンス

日 時：未定

場 所：未定

④研修会等コーディネート

各関係団体窓口一覧の更新 令和8年9月2日更新内容掲載済み

(2) 連携強化

①連携強化

「第11回函館市医療・介護連携多職種研修会」

日 時：令和8年10月17日（土）14：00～17：00 ※予定

場 所：函館国際ホテル

テ ー マ：「医療・介護・障がい福祉の垣根を越えて つながるあらたな一歩

～知ろう！語ろう！繋がろう！～」

目 的：これまでの医療・介護連携に障がい福祉分野の関係者にも参加いただき、医療・介護・障がい福祉それぞれの役割や専門性、制度等について相互に理解を深めるとともに、連携が必要となる場面や課題を共有することで、患者・利用者や障がいのある方（児）が切れ目なく安心して地域で生活できる支援体制の構築に向け、多職種間の連携意識と実践的な連携力を高めることを目的とする。

対 象：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護・障がい福祉関係者

座 長：函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生

内 容：・講演

ゆうあい会石川診療所 大場 公孝 先生

障害者生活支援センターぱすてる 小谷 素美子 様

ワークショップはこだて 原田 智子 様

北斗市地域包括支援センターかけはし 水上 隆広 様

小規模多機能ななえはまわとな 松川 郁美 様

函館赤十字病院 藤枝 直子 様

・グループワーク

・意見交換・質疑応答

定 員：300名（グループワーク参加240名、聴講のみ60名）

②看取り

「令和8年度 函館市医療・介護・障がい福祉連携『施設看取り研修会』」

共 催：介護施設系4団体、函館市医師会在宅医療医会、

ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

日 時：令和8年7月31日（金）18：00～20：00

場 所：函館競輪場テレシアター

テ ー マ：「施設看取りの不安・気づき・そして今～つながるケア～」

目 的：看取りを実践している介護施設等の取り組みを広く関係者に共有・波及させることを通じて、介護施設等における、より質の高い看取りケア体制の強化を目指す。

対 象：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関係者
函館市の障がい福祉関係者

座 長：函館市医師会在宅医療医会 会長 函館稜北病院 川口 篤也 先生

内 容：（老施協）特別養護老人ホームももハウス 施設長 工藤 希幸 様
（道南老健）介護老人保健施設やわらぎ苑上磯

介護課サブマネージャー 野口 秀明 様

（GH 協会）認知症高齢者グループホームなでしこ

ユニット長 野宮 勝 様

（有サねっと）サービス付き高齢者向け住宅サンライズ函館

施設長 鈴木 文香 様

参加人数：160名

③入退院支援

（ア）「令和8年度 入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」

日 時：令和8年11月18日（水）18：30～20：00 ※予定

場 所：函館医療センター 大会議室

テ ー マ：「その人のイメージ、ズれてない？」

～気づいた。すり合わせた。さあ、次は？～

研修形態：事例をもとに、グループワーク

定 員：60名

（イ）「令和8年度 入退院支援連携強化研修会（サマリー編）」

○「第2回もしもノート研修会」

共 催：函館市医療・介護連携推進協議会（情報共有ツール作業部会）、
ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

日 時：令和8年7月14日（火）18：30～20：00

場 所：市立函館病院 2階講堂

テ ー マ：「地域でつなげよう ACP の輪～この地域での ACP 連携を目指して～」

座 長：函館市地域包括支援センターたかおか 施設長 松野 陽 様

内 容：・講演

（登壇者）【もしもノートについて】

市立函館病院 緩和ケア科科長 山崎 裕 先生

【急性期病院の現場から考える ACP

「もしもノートはこだて」思いの先に広がる医療へ】

市立函館病院 患者サポートセンター 入退院支援課

入退院支援係長 熊倉 慎治 様

・ 2人ワーク：もしもノートを活用した対話体験

・ グループワーク：「地域で取り組む ACP」

対 象：函館市、北斗市、七飯町の医療・介護関係者

函館市の障がい福祉関係者

参加人数：41名

④急変時対応

「令和8年度 函館市医療・介護・障がい福祉連携『急変時対応研修会』」

日 時：令和9年2月頃予定

場 所：未定

(3) 多職種連携の専門性の向上

日 時：令和8年9月24日（木）

場 所：森町役場

テ ー マ：「はこだて連携サマリーの概要及び活用方法」

参加人数：30名

(4) 人材育成

センター主催研修会への見学参加（各医療・介護系の学校への案内）

2. センターホームページ「コラム」の掲載について

○「医療・介護連携マップで検索できる各機関の機能」について

2～3ヶ月毎にコラム掲載中

・ 3月31日掲載「介護医療院」

高橋病院 介護医療院 看護マネージャー 花田 みゆき 様

・ 7月23日掲載「養護老人ホーム」

養護老人ホーム永楽荘 支援相談員 工藤 猛 様

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」

よろこび定期巡回・随時対応型訪問介護看護 管理者 三輪 奈央 様

・ 9月24日掲載「認知症対応型共同生活介護」

グループホーム函館あいの里 事務長 小野寺 英 様

【令和8年度 多職種連携研修実績および予定表】

	目的（テーマ）および内容	形式				主催/共催	定員	参加者数	時期（実施日時）
		規模（会場）	形態	対象者	レベル				
（１）相互理解の促進									
①医療関係者向け研修 「退院後、施設でこんな生活をしています～介護医療院、養護老人ホーム編～」		中規模 （市立函館病院） （函館新都市病院） （函館市医師会病院）	座学講義	医療・介護・障がい福祉関係者	初級～中級	ほ・なセンターと共催	80名程度	43名 25名	5月21日（木）終了 8月5日（水）終了 R9年2月頃予定
②介護・障がい福祉関係者向け研修 「現場で知っておきたい精神病床・医療療養病床の役割と事情～思いやりのある連携～」		中規模 （函館競輪場テレシアター） （北斗市総合文化センター） （函館市医師会病院）	座学講義	医療・介護・障がい福祉関係者	初級～中級	ほ・なセンターと共催	100名程度	100名 40名	6月12日（金）終了 8月19日（水）終了 R9年2月頃予定
③オープンカンファレンス		中規模	対話体験（事例報告）	医療・介護・障がい福祉関係者	初級～上級		100名程度		
④ 研修会等コーディネート 各関係団体窓口一覧の内容変更の有無を確認		－	－	－	－		－		9月2日（水） 更新済み
（２）連携強化									
①連携強化 「第11回函館市医療・介護・障がい福祉連携多職種研修会」 「医療・介護・障がい福祉の垣根を越えて つながるあらたな一歩 ～知ろう！語ろう！繋がろう！～」		大規模 （函館国際ホテル）	対話体験型 （シンポジウム・GW）	医療・介護・障がい福祉関係者	中級～上級	ほ・なセンターと共催	300名程度		10月17日（土）予定
②看取り 「令和8年度 函館市医療・介護・障がい福祉連携『施設看取り研修会』」 「施設看取りの不安・気づき・そして今～つながるケア～」		中規模 （函館競輪場テレシアター）	対話体験（事例報告）	医療・介護・障がい福祉関係者	中級～上級	6団体と共催	100名程度	160名	7月31日（金）終了
③入退院支援 （ア）「入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」（退院支援分科会主催） 「その人のイメージ、ズレてない？～気づいた。すり合わせた。さあ、次は？～」		小規模 （函館医療センター）	対話体験型 （GW）	医療・介護・障がい福祉関係者	中級～上級	ほ・なセンターと共催	60名程度		11月18日（水）予定
（イ）「入退院支援連携強化研修会（サマリー編）」 「第2回もしもノート研修会」		中規模 （市立函館病院）	対話体験型 （GW）	医療・介護・障がい福祉関係者	中級～上級	ほ・なセンターと共催	50名程度	41名	7月14日（火）終了
④急変時対応（急変時対応分科会実務者会議主催） 「令和8年度函館市医療・介護・障がい福祉連携『急変時対応研修会』」		中規模	対話体験型 （シンポジウム）	医療・介護・障がい福祉関係者	中級～上級	ほ・なセンターと共催	100名程度		R9年2月頃予定
（３）多職種連携の専門性の向上									
各種出張講座等 「はこだて連携サマリーの概要及び活用方法」		小規模 （森町役場）	講師：センター職員	医療・介護・障がい福祉関係者	初級～中級	出張講座	20名程度	30名	9月24日（木）終了
（４）人材育成									
センター主催研修会への見学参加 ※各医療・介護系の学校への案内		随時	見学・座学講義	医療・介護・障がい福祉関係者、学生、教員	未経験者		数名		随時

※ 新型コロナウイルスの状況等により、研修会の中止および開催時期、方法等が変更となる場合があります。

ホームページ上で掲載した研修情報一覧（令和8年4月～令和8年9月）

月	研修名称（団体名）	件数
4月		0件
5月	<p>令和8年度 歯・口腔に関わる在宅療養支援サポート研修会 「高齢者の口腔の特徴と口腔の健康が全身的な健康に及ぼす影響」 R8年6月19日開催（道南圏域在宅歯科医療連携室主催）</p> <p>メンズシェッド講演会 「地域での『生きがい』と『つながり』を育む ～男性の社会的健康を支えるメンズシェッドの可能性～」 R8年6月19日開催 （函館稜北病院HPH委員会主催）</p> <p>令和8年度第1回家族支援ネットワーク学習会 「当事者の回復を支える家族のコミュニケーション」 R8年7月4日開催 （北海道精神保健福祉士協会道南ブロック主催）</p> <p>「第8回北海道PhDLS in 函館」R8年9月5日、6日開催 （第8回北海道PhDLS実行委員会主催）</p>	4件
6月	<p>第24回 呼吸ケア研修会 「呼吸リハビリテーションのトピック」 R8年7月18日開催 （道南呼吸ケア研究会主催）</p> <p>第32回道南摂食嚥下研究会 「『みんなで診る摂食嚥下活動』観察のポイントと簡単なトレーニング」 R8年7月22日開催（道南摂食嚥下研究会主催）</p> <p>「訪看連協主催 BCP研修」 R8年7月24日開催 （北海道訪問看護ステーション連絡協議会 道南支部主催）</p>	3件
7月	<p>第1回 口腔衛生管理強化のための研修会（Web） 「要介護高齢者に対する口腔衛生管理の実践」 R8年9月4日開催 （北海道歯科医師会 在宅歯科医療連携室主催）</p> <p>函館感染対策セミナー 「道南エリアにおける感染対策の医療・介護連携の取組と課題 ～地域で取り組む手指衛生と感染管理の質向上～」 R8年8月22日開催 （東京サウヤ株式会社主催）</p>	2件
8月	<p>一般社団法人 北海道介護福祉士会 専門研修Ⅰ 「『動き出しは本人からの介護実践』～実技編」 R8年10月4日開催 （北海道介護福祉士会主催）</p> <p>道南・生と死を考える会 特別講演会 「ケアの原点に立ち返る～緩和ケアに携わっていま～」 R8年9月21日開催 （道南・生と死を考える会、南渡島地域包括緩和ケアネットワーク共催）</p> <p>第38回日本福祉大学 社会福祉セミナー in はこだて 「地域で支える『ひきこもり』支援 誰もが地域で自分らしく暮らすために」 R8年11月14日開催（日本福祉大学、日本福祉大学後援会、日本福祉大学同窓会、 日本福祉大学北海道道南地域同窓会・北海道地域同窓会主催）</p> <p>道南在宅ケア研修会 2026年度会員総会・第60回定例会 「『支援につながりにくい人』への在宅 ～ひきこもりの概念・制度・実践事例から考える」 R8年9月3日開催 （道南在宅ケア研修会主催）</p> <p>秋期研修会「脳の健康と食」 R8年10月3日開催 （公益社団法人 北海道栄養士会函館支部主催）</p> <p>「介護従業者のための研修会 in 函館」 R8年9月26日開催 （NPO法人 北海道の小規模多機能型居宅サービスを考える会主催）</p>	6件

9月	令和8年度第2回難病対策専門部会（難病対策地域協議会）実務者研修会 「『もしも』に備える難病支援～災害時に向けて、難病のある方をどう支えるか～」 R8年10月8日開催 （南渡島保健医療福祉圏域連携推進会議難病対策専門部会主催）	7件
	令和8年度函館市難病事例検討会（学習会） 「進行性神経難病患者のコミュニケーション支援について」 R8年10月13日開催 （市立函館保健所保健予防課主催）	
	第56回 道南地区老人福祉施設 職員研究大会 「現場のなぞルールを解きほぐす～今変える！介護の当たり前」 R8年10月7日～8日開催 （道南地区老人福祉施設協議主催）	
	1日防災学校 「災害からの避難を考える」 R8年10月9日開催 （北海道上磯高等学校，北斗市地域包括支援センターかけはし共催）	
	ほくと市認知症のひとと家族の会「すみれの会」10月定例会 「『今を生きる』私からのメッセージ」 R8年10月19日開催 （ほくと市認知症のひとと家族の会主催）	
	避難生活支援リーダー／サポーター研修 「『災害関連死・ゼロ』を目指して」 R8年11月14日～15日開催 （内閣府主催）	
	2026年度南渡島地域包括緩和ケアネットワーク会員総会並びに第23回定例会 「知的障がい者への緩和ケア」 R8年11月4日開催 （南渡島地域包括緩和ケアネットワーク主催）	
合 計		22件

（その他）

函館市医療・介護連携支援センター主催 0件

ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター主催 1件

各団体との共催 3件

函館市医療・介護連携支援センター， ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催 4件

名 称	第11回 函館市医療・介護・障がい福祉連携多職種研修会
目 的	これまでの医療・介護連携に障がい福祉分野の関係者にも参加いただき、医療・介護・障がい福祉それぞれの役割や専門性、制度等について相互に理解を深めるとともに、連携が必要となる場面や課題を共有することで、患者・利用者や障がいのある方（児）が切れ目なく安心して地域で生活できる支援体制の構築に向け、多職種間の連携意識と実践的な連携力を高めることを目的とする。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護・障がい福祉それぞれの支援の視点や役割、制度の違いを知り、相互理解を深める。 ・医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や課題について共有し、互いの立場から考える。 ・多職種が気軽に相談・情報共有できる「顔の見える関係」をつくり、今後の連携につながる新たな土台を構築する。
共 催	函館市（函館市医療・介護連携推進協議会） 函館市医師会（函館市医療・介護連携支援センター， ほくと・ななえ 医療・介護連携支援センター）
日 程	令和8年10月17日（土） 14：00～17：00（13：30～受付開始） ※研修終了後、関係多職種間の「顔の見える関係づくり」や率直な意見交換を目的とした懇親会を予定 （懇親会は状況により中止となる場合もございます）
会 場	函館国際ホテル（住所：函館市大手町5－10）
テ ー マ	「医療・介護・障がい福祉の垣根を越えて つながるあらたな一歩 ～知ろう！語ろう！繋がろう！～」
内 容	<p>《函館オープンカンファレンス形式》</p> <p>（内容） 座長の進行により、座長と登壇者でディスカッションをしながら事例の理解を深めていきます。</p> <p>（座長） 函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生</p> <p>（登壇者） ゆうあい会石川診療所 大場 公孝 先生 障害者生活支援センターぱすてる 小谷 素美子 様 ワークショップはこだて 原田 智子 様 北斗市地域包括支援センターかけはし 水上 隆広 様 小規模多機能型居宅介護支援事業所ななえはまわとな 松川 郁美 様 函館赤十字病院 藤枝 直子 様</p> <p>（当日スケジュール） ・開会挨拶 ・事例の共有 ・グループワーク ・意見交換・質疑応答 ・閉会挨拶</p>
参加対象	函館市・北斗市・七飯町の医療・介護・障がい福祉関係者
参加人数	300名（グループワーク参加240名，聴講のみ60名） ※定員になり次第，締め切らせていただきますので，お早めにお申込みください。
参加費用	無料（懇親会参加費用は別途掛かります ※金額は4，000円程度）
備 考	アンケート実施

タイムテーブル（案）

令和8年10月17日（土） 14:00～17:00（開場 13:30）

●司会：〇〇 様 ●GW 司会：〇〇 様

●座長：川口 篤也先生

●開会挨拶：函館市医師会 理事 岡田先生 ●閉会挨拶：函館歯科医師会 会長 岩井先生

時刻	タイトル	主な講師	時間
13:30	開場	司会 〇〇様	—
14:00	開会挨拶／趣旨説明	司会 〇〇様／岡田先生	5分
14:05	《シンポジウム開始》／座長挨拶	座長 川口先生	5分
14:10 ～ 15:10	講演（函館オープンカンファレンス形式）	登壇者 大場先生 小谷様 原田様 水上様 松川様 藤枝様	60分
15:10	休憩	司会 〇〇様	10分
15:20	グループワーク説明	GW 司会 〇〇様	5分
15:25	グループワーク	座長 川口先生	60分
16:25	グループワーク発表・意見交換～総評	座長 登壇者	30分
16:55	閉会挨拶／アンケート依頼／懇親会案内	司会 〇〇様／岩井先生	5分
17:00	アンケート記入, 会場移動（懇親会出席者）	—	—
小計			180分
17:30	懇親会	懇親会司会	90分
19:00	（終了）		
合計			270分

役割・グループワークの流れについて（案）

○集合時間

13:15 ～ 多職種連携研修作業部会メンバー

※順次、ファシリテーターと各グループの司会者との顔合わせ

○ファシリテーターのペア

ペア① ○○様, ○○様

ペア④ ○○様, ○○様

ペア② ○○様, ○○様

ペア⑤ ○○様, ○○様

ペア③ ○○様, ○○様

○役割分担

- ・総合司会 ○○様
- ・GW 司会 ○○様
- ・懇親会司会 ○○様（会場誘導係）
- ・受付 ○○様, ○○様
- ・会場誘導係 ○○様,
- ・マイク係 ○○様, ○○様（会場誘導係）
- ・カメラ係 ○○様, ○○様（会場誘導係）

- ・会場誘導係： ○○様, ○○様, ○○様, ○○様, ○○様, ○○様
 - ・会場内担当（○名）：迷っている方へ声がけ（GW 席, 聴講席）
座席に, 名札と資料があることを伝える
 - ・ホール担当（○名）：クロークは2階会場向かいにあることを伝える
駐車認証機の声がけ
*2 階の場合は 3 時間まで無料, 2 階以外は 2 時間まで無料
 - ・名札ブース担当（○名）：聴講の方へ名札を持ってもらうように声掛け
聴講席の場所の声がけ
資料は椅子にある事を伝える
- ・マイク係：○○様, ○○様
グループワーク発表が始まる 16 時 25 分前に, 担当者 2 名はマイクを持ち,
それぞれの場所で待機。発表グループ順にマイクを届ける。質疑応答時間があり,
発言者がいれば, その方へマイクを手渡しに行く。
- ・カメラ係：○○様, ○○様
研修会開始後より, 開会・閉会挨拶者や会全体の写真を撮っていく。
グループワーク時は, 各グループの写真を撮れば撮っていく。
懇親会時も全体の写真や参加者の写真を撮っていく。

グループワークの進め方

○グループワークのねらい

- ・医療・介護・障がい福祉それぞれの立場から、日頃の連携における課題や困りごと、難しさを出し合い、互いの立場や現状への理解を深めるとともに、分野を越えた連携に向け課題を共有する。
- ・一人ひとりが地域でその人らしい生活を続けられるよう、医療・介護・障がい福祉が互いにどのような連携が必要かを考える。

○グループワークの内容

- ・（テーマ１）自職種または自身の経験や視点からみた連携における課題や困りごとについて（医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や自身の経験の中で感じる連携における課題や困りごと、または上手くいった連携、事例を聞いた中での気づき等）
- ・（テーマ２）テーマ１で挙げられた課題等について必要な連携のあり方（どのような仕組みやツール、機会があればよいのか、どう連携していけば良いのか、明日から自分たちができそうなことは何か等）
- ・上記のテーマ１・２について司会者を中心に進行してもらい、書記が模造紙に記入する
- ・発表グループは、テーマ１・２及び質問があれば話してもらう

○多職種でのメンバー構成、各グループに司会者をあらかじめ設定する

○タイムテーブル

15:20 (5分)	<p><グループワーク テーマ１（ＫＪ法）></p> <p>○個人ワークについて説明（グループワーク司会：〇〇様）：１分</p> <p>○個人ワーク開始</p> <ul style="list-style-type: none">・テーマ１について付箋に書き出してもらう・医療・介護・障がい福祉別に色分けした付箋は机上に人数分配置（医療：黄、介護：青、障がい福祉：赤） <p>（テーマ１）自職種または自身の経験や視点からみた連携における課題や困りごとについて（医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や自身の経験の中で感じる連携における課題や困りごと、または上手くいった連携、事例を聞いた中での気づき等）</p>
15:25 (30分)	<p>○自己紹介からグループワークまでの流れの説明（グループワーク司会：〇〇様）：２分</p> <p>○各グループ内で、自己紹介：４分（１人２０～３０秒程度）</p> <ul style="list-style-type: none">・司会は、予め事務局で決めさせてもらっていることを伝える・自己紹介（所属先、職種、氏名）・サイ五郎さんのカードに書いてある質問について一人一言ずつ話してもらう・書記、発表者を決めてもらう <p>○グループで共有</p> <ul style="list-style-type: none">・一人ずつ付箋を出し合いながら個人ワークで考えたことを共有・同じような意見はまとめる（グルーピング）・時間があれば、まとめたグループごとにタイトルをつける
15:55 (30分)	<p><グループワーク テーマ２></p> <p>○グループワーク テーマ２の説明（グループワーク司会：〇〇様）：１分</p> <ul style="list-style-type: none">・グループワーク テーマ１でグループ化した課題について、テーマ２に沿って検討（テーマ２）テーマ１で挙げられた課題等について必要な連携のあり方（どのような仕組みやツール、機会があればよいのか、どう連携していけば良いのか、明日から自分たちができそうなことは何か等）

16:25 (30分)	<p>○グループワーク発表・意見交換～総評（座長：川口先生）</p> <p>各登壇者：大場先生，小谷様，原田様，松川様，水上様，藤枝様</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に打ち合わせた順番でグループ発表。詳しくは，（発表グループの選定を参照） ・発表内容は，テーマ1・2及び質問 <p>座長の進行で，発表内容または質問に対し各登壇者からコメントをもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総評及び感想 <p>座長，各登壇者からコメントをもらう</p>
----------------	--

○模造紙と模造紙半分の用紙のイメージ

- ・テーマ1の模造紙には，個人ワークで記載した付箋を貼り，グルーピングする。
- ・テーマ2の模造紙には，テーマ1で挙げられた課題等について必要な連携のあり方について記入する。
- ・模造紙半分の用紙には，登壇者や座長に聞きたいことを記入する。

＜模造紙＞

「医療・介護・障がい福祉の垣根を越えて
つながるあらたな一歩
～知ろう！語ろう！繋ごう！～」

（テーマ1）

自職種または自身の経験や視点からみた連携における課題や困りごとについて（医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や自身の経験の中で感じる連携における課題や困りごと，または上手くいった連携，事例を聞いた中での気づき等）

顔の見える連携ができていない



相互理解が不足



（テーマ2）

テーマ1で挙げられた課題等について必要な連携のあり方（どのような仕組みやツール，機会があればよいのか，どう連携していけば良いのか，明日から自分たちができそうなことは何か等）

＜模造紙半分の用紙＞

質問用紙

登壇者，座長に是非，聞きたいことがありましたら，こちらに記載してください

○ファシリテーターの役割

【テーマ1】連携における課題や困りごと等を出し合う

◆個人ワーク時に、記載内容に困っていたら介入する

- ・今現在、参加者の感じていることを出してもらうよう促す。
- ・自職種または自身の視点からみた連携における課題や困りごとについて、医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や、自身の経験の中で感じる課題や困りごと、連携がうまくいった経験、事例を聞いた中での気づき等を出してもらえよう促す。
- ・「こんなことを課題として出してよいのか」「自分だけが感じていることかもしれない」と思うようなことでも、まずは付箋に書き出してもらえよう促す。
- ・付箋に書く手が止まっていたら「日頃、他の職種に聞いてみたいと思っていることはありますか？」「連携するときに、もう少しこうだったらいいのと思うことはありますか？」「逆に、連携がうまくいった経験はありますか？」など、具体的な問いかけを行う。

◆個人ワークの内容を共有

- ・グループでの話し合いが止まっていたり、発言できていない人がいる場合は、必要に応じて介入する
- ・グルーピングに迷っていたり、タイトルに迷っていたら、不正解はないので思ったままで良いことを伝える。

【テーマ2】必要な連携のあり方・これからできることを考える

- ・テーマ1でグルーピングした一つ一つの課題等について、必要な連携のあり方や、明日から自分たちができそうなことを考えられるよう促す。
- ・「どのようなツールがあればよいか」「どのような機会があればよいか」だけでなく、「今あるものをどのように活用できるか」「どんなことだったら始められそうか」について考えてもらう。・自身が実践していることだけでなく、他の参加者から出された提案について「自分の職場・立場ではどこまでできそうか」など、具体的に考えてもらう。
- ・職種によっては経験したことのない場面について話し合うこともあるため、登壇者の事例や他の参加者の経験・意見を参考にしながら、自分の立場に置き換えて考えてもらえるよう促す。
- ・意見が「できない理由」の話に偏った場合は、「もし条件が整うとしたら、どんなことができそうですか？」「今の状況で、少しでもできそうなことはありますか？」など、「できること」に視点を戻す問いかけを行う。

【全体として気をつける事について】

- ・「〇〇職はこうだ」「〇〇の事業所はこうだ」など、個人の経験が特定の職種・事業所全体の話として一般化されないよう配慮する。特定の職種・事業所等への批判や批評にならないよう、必要に応じて、「個々の職種や事業所を評価する場ではなく、連携について考える場として話してみましょう」など、話題を本来のテーマに戻す。
- ・専門用語の説明やレクチャーが長く続く場合は、適切に介入する。例としては、「そろそろテーマのディスカッションに戻りましょうか」「その話題（疑問）について聞きたいことが出た場合は、全体の意見交換の時間に確認してみてもいいでしょうか」など。
- ・特定の人が話し続ける状況があった場合は、他の参加者にも意見を聞くなど、できるだけ参加者全員が話せるよう配慮する。発言が少ない人に対しては、無理に発言を求めるのではなく、答えやすい質問や付箋に書いた内容をきっかけに参加しやすいよう声をかける。

・意見が対立した場合は、どちらが正しいかを判断するのではなく、「なぜそのように感じたのか」「それぞれの立場ではどう見えているのか」を整理し、相互理解につながるよう支援する。

・ファシリテーター自身が答えを出したり、意見をまとめすぎたりせず、参加者同士で考え、意見を整理できるよう支援する。時間を意識して、テーマ1の意見出し・整理からテーマ2の「必要な連携」「これからできること」へ、無理なく話し合いが進むよう促す。

【発表グループの選定】

- ① ファシリテーター2人がペアになってもらい●～●グループを担当します。
- ② 各担当グループのうち、ねらいに沿った話ができているグループや、ぜひ全体で共有したいと思われるグループをペアのファシリテーターと相談して1グループを選定する。
- ③ 16：15（グループワーク終了10分前位）になったらファシリテーター席に集まり、選定グループを報告（全5グループになる予定）
- ④ ファシリテーターと座長、センター間で相談して、発表してもらう順番を決める。（時間があれば全5グループ、時間がなければ3グループ程度）

※全体で共有した方が良いと思われる質問等があった場合は、意見交換の場面で対応する旨を伝え、発表に当たったグループは、シンポジスト、座長に聞きたいことについても話してもらう。当たらないグループは、後日センターのホームページにて掲載する旨伝える。

【見 本】

○ファシリテーター

ペア：_____

選んだグループ番号：_____

選んだポイント：_____

グループワーク進行上のお願い

○ファシリテーターと司会者との顔合わせ

- ・各グループを担当するファシリテーターがいます
- ・司会者が進行する中で困ったらファシリテーターへ声を掛けてください。

○テーマ

（テーマ1）自職種または自身の視点からみた連携における課題や困りごとについて

（医療・介護・障がい福祉の連携が必要となる場面や自身の経験の中で感じる連携における課題や困りごと、または連携が上手くいった連携、事例を聞いた中での気づき等）

（テーマ2）テーマ1で挙げられた課題等について必要な連携のあり方や明日から自分たちができそうなことは何か（どのようなツールがあればよいのか等）

○タイムテーブル

15:20 (5分)	<p><グループワーク テーマ1 (KJ法)></p> <p>○個人ワークについて説明（グループワーク司会：〇〇様）：1分</p> <p>○個人ワーク開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ1について付箋に書き出してもらう ・医療・介護・障がい福祉別に色分けた付箋は机上に人数分配置（医療：黄、介護：青、障がい福祉：赤）
15:25 (30分)	<p>○自己紹介からグループワークまで流れの説明（グループワーク司会：〇〇様）：2分</p> <p>○各グループ内、自己紹介：4分（1人20～30秒程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会は、予め事務局で決めさせてもらっていることを伝える ・自己紹介（所属先、職種、氏名） ・サイ五郎さんのカードに書いてある質問について一人一言ずつ話してもらう ・書記、発表者を決めてもらう <p>○グループで共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ付箋を出し合いながら個人ワークで考えたことを共有 ・同じような意見はまとめる（グルーピング） ・時間があれば、まとめたグループごとにタイトルをつける
15:55 (30分)	<p><グループワーク テーマ2></p> <p>○グループワーク テーマ2の説明（グループワーク司会：〇〇様）：1分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークでグループ化した課題について、テーマに沿って検討
16:25 (30分)	<p>○グループワーク発表・意見交換～総評（座長：川口先生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座長進行のもと発表グループに選ばれた場合は、（テーマ1）と（テーマ2）ともし質問があった場合は、それも合わせて発表する ・発表グループに選ばれなかったグループも質問がある場合には挙手する

○付箋について

- ・医療・介護・障がい福祉別に色分けた付箋は机上に人数分配置。手に取っていない方がいたら、取ってもらうよう促す。（医療：黄，介護：青，障がい福祉：赤）

○グループワークの進行について *別紙「グループワークのルール」参照

- ・グループ内で話しやすい雰囲気となるように別紙「グループワークのルール」に記載されている内容を参考にして進めてください。常にこのルールを意識できるようにテーブルの上に置いてもらったり、口頭で伝えたりしてください。
- ・グループ内で1人の方が話し続けているようであれば声掛けをしてあげてください。（「そろそろテーマのディスカッションに戻りましょうか」「他の方のご意見も聞いてみましょう」等）

○模造紙と半分の模造紙について

- ・テーマ1の模造紙には、個人ワークで記載した付箋を貼り、グルーピングする。
- ・テーマ2の模造紙には、テーマ1で挙げられた課題等について必要な連携のあり方について記入する。
- ・模造紙半分の用紙には、シンポジストや座長に聞きたいことを記入する

グループワークのルール

○グループワークを円滑に進めるために下記のことを心掛けましょう。

テーマに沿って話しましょう

話が脱線しても

必ず（テーマ1）と（テーマ2）に戻りましょう

みんなで話しましょう

「こんな事話していいのかな」と思わずに

どんどんお話ししてください

経験の有無に関係なく

イメージしてみましょう

もしも自分だったら、自分が支援するとしたら

などを想像してみましょう

批判・否定しないように しましょう

グループ内の人の発言にネガティブな

判断をしないようにしましょう